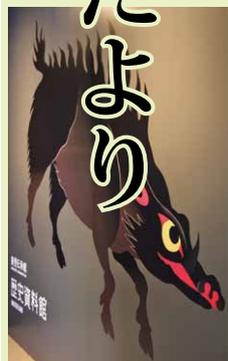


# 歴

## 史資料館だより



No.61  
教育委員会生涯学習課  
伝承館グループ  
(☎0296-23-8521)

### 郷土を映す文学碑

寺社や公共施設の一角には多様な石碑が並んでいます。これらには地域の歴史や建立の謂れが記される一方、その土地に関わる俳句や短歌が刻まれたものもあります。

今回は、石碑の中でも、文学に関わる碑について紹介します。

磯部稲村神社の境内に足を踏み入ると、江戸時代末の天保14年（1843年）に建てられた大きな歌碑があります。



磯部稲村神社にある紀貫之歌碑

記されているのは、平安時代に編さんされた『後撰和歌集』に収められている紀貫之の『いつも春へになれば桜川波の花こそまなくよすらめ』という歌で、桜川という地名を聞いた紀貫之が花の波が間断なく押し寄せる様を思い描いて詠んだと言われています。

紀貫之自身が東国に来たという記録はありませんが、桜川の評判が遠い京にまで届いていたとも考えられています。

なお、『後撰和歌集』には『常よりも春べになればさくら河花の浪こそ間なく寄すらめ』と記されていますが、これは歌が詠まれた平安時代から石碑の建てられた江戸時代までに人によって伝えられてきた中で少し形が変化していったためと思われる。



磯部桜川公園にある石倉翠葉句碑

次に紹介するのは、磯部桜川公園の中にある『桜魚掬はば花となりぬべし』と記された句碑。この句は、旧岩瀬町西飯岡出身の文士・石倉翠葉が、桜川を舞台にした謡曲「桜川」について詠んだもので、石碑の文字は翠葉と親交のあった小川芋銭の書によるものです。

若干20歳という年齢で、桜川に関する歴史や風俗などを『桜川事蹟考』という1冊の本にまとめ上げた石倉翠葉は、私財を投じて桜川頭彰の

ために生涯を捧げました。大正13年に桜川のサクラが国の名勝に指定されたのは、彼の存在があつてこそです。

最後に真壁伝承館敷地内にある藤田祐四郎の歌碑を紹介します。

藤田祐四郎は東京美術学校日本画科に進学するも、生家の農業を継ぐために絵筆の道を断念。しかし、農業に従事する傍ら、文芸に親しみ続けました。『つくばねのふもと』の麦は穂孕みて妹が住むべに向きかよそがむ』石碑に刻まれた歌は、筑波の遠縁を尋ねた際、その途次に詠んだものだと言われています。

このほかに市内には紹介した以外にも文学碑が多数残されています。文士たちが残した言葉から、いつもと違った郷土の姿に触れてみてください。



真壁伝承館にある藤田祐四郎歌碑

✦ Lila Ruhe ✦  
✦ ~リーラールーエ~ ✦

TEL 070-5573-8735

〒300-4505 筑西市田宿506-8(旧明野町)

定休日 火曜日

営業時間 10:00~18:30

動物取扱番号:茨城県第1593号 取扱業種:保管 登録年月日:H25.7.10  
登録有効期限:H30.7.9 動物取扱責任者:藤沼 夏美

犬の美容室



### 無料法律相談

交通事故で損をしないために!

予約制

※事業・法人は  
30分5400円(税込)

8月23日(日)

9月 6日(日)・20日(日)

10月 4日(日)・25日(日)

茨城県弁護士会所属 程塚 智則

場所:学園都市法律事務所  
つくば市吾妻 3-10-13  
つくば文化ビル 3A

筑波メディカル  
センター近く

☎ 029-869-9500



安心できる  
地元の弁護士